



さとう ちこ
佐藤 知子



つし みらい かんが かい
津市の未来を考える会

オーガニック給食への取り組みは

問 近年、食物アレルギーを持つ子どもは増え続けている。

安心安全な学校給食のために、オーガニック給食を実施できないか。

現在、農林水産省は「みどりの食料システム戦略」として、2050年までに有機農地を25%に拡大するとしている。その大口消費の出口戦略として、学校給食に有機農産物を積極的に取り入れることはできないか。

素材の持ち味を生かした手作り給食に努める

答 オーガニック給食は、農薬や化学肥料に頼らずに栽培された農産物を使用した給食であり、全国的にも地域で栽培された有機農産物や無農薬野菜を提供している自治体があることは認識している。

しかし、オーガニック給食の課題として、有機農産物や無農薬野菜を用いるためには、食材の安定的な確保や価格面等の課題がある。

よって、現在津市では、旬の食材や地場産物を活用するとともに、衛生面や食物アレルギー対応等に配慮しながら、素材の持ち味を生かした手作り給食の実施に適する食材を、価格面も考慮し、選定している。

●その他の質疑・質問●

○小児のワクチン接種について
●津市の新型コロナ陽性者の年代別重症者数、死亡者数について

●小児ワクチン接種の効果と安全性について

○子どもたちの通学路の安全について

●通学路の点検方法は
●危険な箇所が見つかった場合の対応は など



▲現在の津市の学校給食



た や しゅう すけ
田 矢 修 介



きぼう かせ
希望の風

市民の生命を守る津市救急医療体制の強化を

問 令和4年度の当初予算において、コロナ対策を含め計上された関係予算により、津市の救急医療体制は、どのように担保され、患者の生命が守られるのか。

また、小児外傷等への対応強化が求められているが、津市の現状は。

コロナ対応を含む救急医療体制を確保する

答 市内3カ所の応急診療所の運営経費や、二次救急輪番病院の体制整備のための支援のほか、対コロナ戦略としては、感染拡大に伴う地域医療へのさまざまな影響に対し即応できるよう、引き続き、感染症病床を有する指定医療機関や二次および三次救急をはじめとする医療機関全般への支援として、特別負担金3,500万円を予算計上している。

小児外傷等への休日診療の対応は、軽症の場合などは、津市こども応急クリニックにおいて可能な限り行っているが、重症や緊急性の高い症例については、同じ敷地内の三重病院へ依頼する対応や、状況によっては、救急車の要請も行っている。

●その他の質疑・質問●

○津駅西口ロータリーの混雑による危険の解消と安全対策を

○激化、頻発する豪雨に対し、令和4年度の津市の取り組みは

○老朽化している岩田川の堤防についてさらなる護岸整備を

○教育方針にうたわれている学校マネジメント機能の強化は

○プレミアム付デジタル商品券発行事業についてプレミアム率を20%に設定した理由は など



▲いつでも、どこでも、誰でもが受けられる体制の構築を